

みなくちだて
水口楯

323-006

所在地 朝日町大字常盤字楯

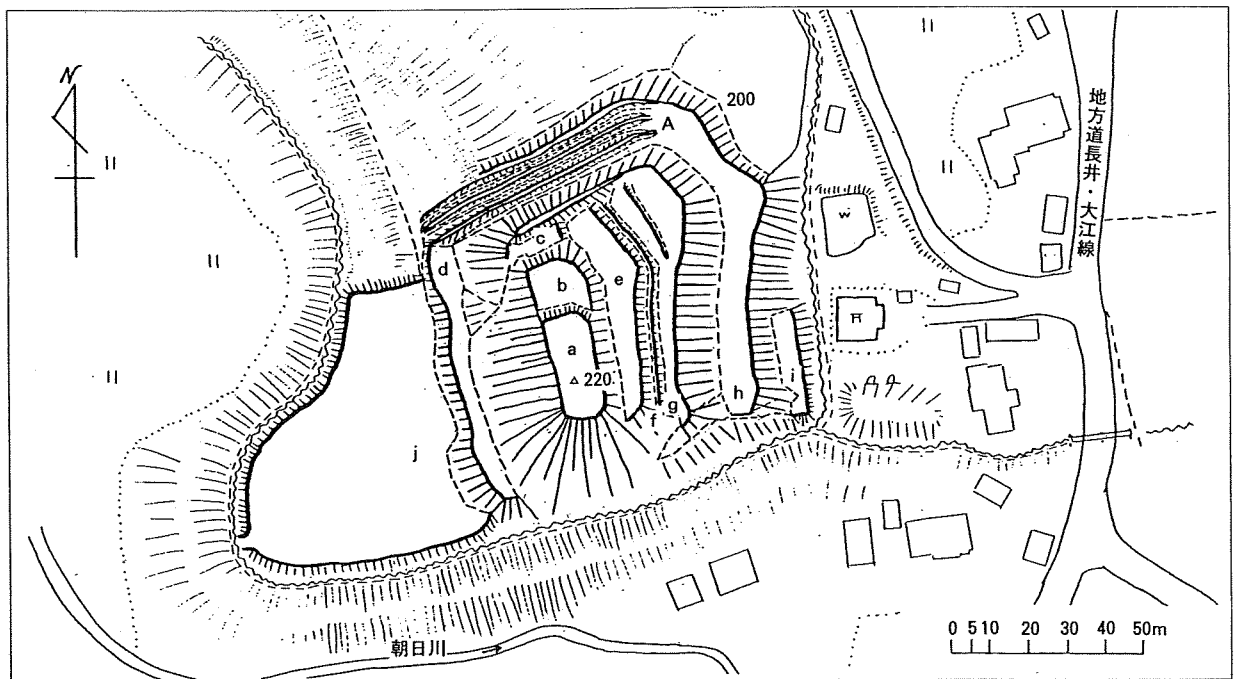
築城者 不明

築城時期 〈戦国期〉

史料 「字限図」

概要

常盤水口十一面観音堂の裏山に位置し、通称楯（標高 220m）の山頂を中心に東西・南北各々約 100 m の範囲で築かれた山城である。a の本丸は南北に長方形に 12×18m の曲輪で、北側に段差下り b 195㎡の曲輪と、c4×15m の長方形の曲輪がある。その西側に d5×70m の帯曲輪へと道で繋がっている。ab の東へ不整形些か弧状に e 長さ 60m・巾 4~10m の曲輪と、その下に f1×60m の帯曲輪がある。さらに段差下り長さ 70m・巾 3×15m の g の曲輪と、又それを圍繞するように h の曲輪が長さ 100m・巾 8~12m の広巾帯状の形で防御している。i は麓の最も低地の曲輪で南端より登り道が通じている。本丸北側には三条の薬研堀の A 空堀が長さ 65m・巾 4~5m・深さ 2~3m で防御している。観音堂は前に西側の j 葡萄畑に建立されていた由、最上義光の軍勢が八ッ沼城攻撃の際、一夜宿ったとの伝えがある。この楯の南西側は断崖で朝日川に面し、東側は主要地方道長井・大江線が走り、南側に皆朱沢楯・松程楯、東に宇津野館、西に太郎楯を眺望できる。（登坂高典・鈴木治郎）



水口楯略測図